

学校教育目標	
【学校の教育目標】	英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに
【校訓】	自律 共生 創造

**各教科の指導の重点**

○学習指導要領で示された目標及び学校の教育目標を達成するために、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした授業改善に努め、授業の質を向上させる。

○情報収集・プレゼンテーション資料作成・発表・話し合い等の活動を充実させて、コミュニケーション能力を高め、主体的・対話的で深い学びを実現する。

○「中野区学力にかかわる調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果等から明らかになった課題を踏まえて授業改善プランを作成し、「基礎的・基本的な内容」の確実な定着や学びの連続性を意識した授業改善、指導と評価の一体化の工夫を一層推進する。

○知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等が育成できるよう、観察や実験、レポートの作成、論述等、自ら考え、表現する活動を重視する。

○少人数指導・習熟度別指導による生徒の個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な内容の習得を目指すとともに、任期付短時間勤務教員を効果的に活用したチームティーチングによる指導や週4日実施する放課後学習教室、夏の補充学習教室などで家庭との連携を深め、自主的な学習習慣及び学習内容の確実な定着を目指す。

○一人1台端末を活用した学習を進め、探究的な学習や小集団活動を通じた「協働的な学び」と、一人ひとりの学習状況に応じた「個別最適な学び」の充実を図り、生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指す。

○特別な支援が必要な生徒に対して、校内委員会が中心となって個別の指導計画や学校生活支援シートを作成し、個に応じた適切な指導や評価を計画的、組織的に取り組む。

○健康体力向上委員会を中心に、保護者や地域関係者との連携を図り、がん教育の推進を含め、基本的な生活習慣や健康三原則（栄養・運動・休養）の確立に努める。体力テストの結果を基に中野スタンダードによる目標を達成するための体力向上プログラムを作成し、それを基盤に系統的・計画的な指導を行う。更に体力向上月間を年間3回設定し、生徒の自主的・主体的な実践を促し、体力・運動能力向上の大切さを理解させる。

○読書活動を推進するために学校図書館指導員との連携を通して、図書委員会を活性化するとともに、学校図書館を活用した授業を計画的に行う。また、全校で朝読書活動を実施し、読書習慣を身に付けさせる。

**令和4年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）**

- ・基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ・一人一台のタブレットを活用した授業を実践する。
- ・主体的・対話的で深い学びにつながる授業を実践する。

**指導の重点（本校の捉える「確かな学力」）**

- 各教科における基礎的・基本的な知識や技能の定着
- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力（特にコミュニケーション能力）の育成
- 主体的に授業・家庭学習・読書に取り組む態度の育成

**キャリア教育の重点**

キャリア・パスポート等の活用を通して、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成を図る。

**道徳教育の指導の重点**

- ・生命を大切にし、他者を思いやる心を育てる。
- ・公正さを重んじ、他者とともに生きようとする心を育てる。
- ・それぞれの個を生かしてよりよい集団や社会を形成しようとする心を育てる。

**特別活動の指導の重点**

- 望ましい人間関係を築くことができるような指導の工夫をするとともに、課題を自主的・実践的に解決しようとする態度を育成する。
- 体験的な学習を重視し、自己の生き方についての考えを深め、主体的に学び将来設計、進路選択をする態度を養う。
- 自主的な生徒会活動ができるような指導を行い、委員会活動・ボランティア活動を活性化し、社会の一員としての実践的な態度を育てる。

**生活指導の重点**

- 将来の社会の形成者として、基本的な生活習慣の確立、集団内の役割や責任の自覚、規範意識を高める態度、いじめを許さない態度の育成を図る。

**学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用**

生徒の一人ひとりの学力をのばすために、生徒一人ひとりの学習状況に応じたきめ細やかな指導、基礎学力の定着しない生徒への学習支援、少人数指導、放課後の学習指導や教材作成などを行い、学力向上を目指す。

**総合的な学習の時間の指導の重点**

- 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるように、総合的・横断的な学習や探究的な学習、課題解決的な学習を取り入れ、自ら問題を発見し、主体的に判断し、よりよく課題を解決する能力を育成する。
- 課題解決的な学習や探究的な学習では、ICTや学校図書館を活用して必要な情報を収集・整理・分析し、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成する。
- 職場訪問や職場体験、社会貢献活動調査等の取組において、地域の人材や関係諸機関との連携・協力を推進し、主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育み、自己の生き方を考える力を高める。

**授業改善の視点**

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	小学校との連携	家庭・地域との連携
○少人数指導や習熟度別指導の充実 ○ICT（タブレット端末）、UDLの効果的な活用 ○放課後学習教室の充実 ○学生ボランティア等による学習支援	○二学期制による授業時数の確保 ○朝の読書活動 ○定期的な面談期間の設定 ○感染症防止対策を踏まえた年間指導計画の見直し	○新学習指導要領に適した評価基準の見直し ○個人内評価やパフォーマンス評価など、多様な評価の工夫 ○校内評価研修会の実施、指導と評価の一体化の推進	○ICT（タブレット端末）の効果的な活用の提案授業の実施 ○ニューノーマルな学習の推進 ○生徒理解を踏まえた学級・学年経営の充実 ○キャリア教育の推進	○オープンキャンパスの開催方法の工夫改善 ○夏季休業中の部活動体験の実施 ○職場体験における連携 ○効果的な乗り入れ授業の実施	○地域行事におけるボランティア活動の取組 ○家庭学習の手引きの活用による指導 ○キャリア教育における地域人材の活用

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	<b>区学力調査の結果の分析</b> ○領域別正答率から分析すると、「情報の扱い方に関する事項」で区平均よりも 3.0 ポイント低く、「読むこと」は 2.2 ポイント低い。一方で「書くこと」は 3.5 ポイント高い。また、領域で見るとすべて目標値を上回っている。 ○問題の内容別正答率から分析すると、唯一「漢字を書く」の内容で目標値を下回っている。	<b>具体的な授業改善案（手だて）</b> ○「読むこと」の力を付けるために授業内でも読解問題に取り組む時間を設ける。 ○ I C T 機器を無理に使用するのではなく、目的に応じて機器を活用する。（文章を推敲させたい際はタブレットでもできるが、漢字を習得させたい際は手で書かせる等） ○目指すゴールを示すが、そのゴールに行き着く手段は多様であることを授業で理解させる。生徒の様々な考え方を紹介したり共有したりして知識の応用的な活用ができるようにする。 ○ノートの取り方を今一度確認し、板書の字を平仮名に変換しない、漢字は調べて書くことを徹底する。
	<b>授業における課題</b> ○漢字を自発的に使わない生徒が多い。分からない漢字を即座にタブレットや辞書で調べる生徒もいれば、分からないから平仮名で書くという生徒もいる。 ○得た知識を応用的に活用することができていない。 ○今何をすべきかわからない生徒や集中が続かない生徒が少なくない。	
2年	<b>区学力調査の結果の分析</b> ○領域別正答率から分析すると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」でわずかに区平均を下回っており、「読むこと」ではわずかに平均を上回っている。総じて区の平均と大差はない。また、領域で見るとすべて目標値を上回っている。 ○問題の内容別正答率から分析すると、どの内容も区平均と大差ないが、「漢字を書く」の内容は 4.7 ポイント高い。	○グループやペアで話し合う機会を多く設け、言語活動豊かな授業を心がける。 ○問われ方と答え方を授業でよく確認し、実践問題形式の授業を展開する。 ○デジタル教科書で本文に色付けをするなど従来口頭で説明する他なかった指導を視覚的に分かりやすい指導を実践する。 ○ I C T 機器を無理に使用するのではなく、目的に応じて機器を活用する。（文章を推敲させたい際はタブレットでもできるが、漢字を習得させたい際は手で書かせる等） ○目指すゴールを示すが、そのゴールに行き着く手段は多様であることを授業で理解させる。生徒の様々な考え方を紹介したり共有したりして知識の応用的な活用ができるようにする。
	<b>授業における課題</b> ○落ち着いて授業を受けているが、主体的に参加できている生徒と受け身で授業を受けている生徒に二分化される。 ○得た知識を応用的に活用することができていない。 ○タブレットで課題提出をさせる際、情報の扱い方に課題を感じる。上記の通り、授業で学んだことを正しく活用できていない生徒がいる。	
3年	<b>区学力調査の結果の分析</b> ○領域別正答率から分析すると、「我が国の言語文化に関する事項」で区平均よりも 3.5 ポイント低い。これ以外の項目は、全て区の平均を上回っている。 ○問題の内容別正答率から分析すると、「漢字を書く」が 2.2 ポイント、「漢字を書く」が 0.8 ポイント、「文法・語句に関する事項」が 2.1 ポイント、それぞれ区の平均を下回っている。	○授業では既習事項を確認する時間を設け、知識の定着を図る。 ○新出漢字に加え、特に小学校 6 年生以降に習う漢字の読み書きを毎回の授業で扱う。 ○作文の推敲を行うことで、文法事項の確認ができるようにする。特に、主述のねじれや呼応の副詞に注意させる。 ○インターネットで情報を収集する場合、出典の明記に関して必ず確認させる。 ○多様な問い方の問題を扱い、知識を応用する力を養う。
	<b>授業における課題</b> ○落ち着いて授業を受けており、主体的に参できる生徒が多い。 ○既習事項の応用をすることが苦手な生徒が多い。 ○タブレットを用いた授業では、情報の信頼性に関する意識が足りない生徒が見られる。	

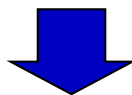
現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策

- 得た知識を応用する力…知識習得型の授業ではなく、その知識を授業内で発展的に生かす内容を展開する。
- 情報を的確に読み取る力…グラフや表、文章から多角的に情報を読み取れるよう指導する。
- 達成目標までの到達手段を考える力…示す例の内容や時期を適切に判断し、生徒たちが多角的な視点をもてるようにする。
- 主体的に授業に取り組む力… I C T 機器を適宜活用して興味をもって取り組める導入を心がける。

(2) 社会科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業では積極的に取り組む生徒が多く、発言も活発である。</li> <li>○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。</li> <li>○表現や資料の読み取りに課題を有している生徒が一定数いる。</li> <li>○今何をすべきなのかが把握できていない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元毎に小テストを行ったり簡単な家庭学習の課題等に取り組ませたりする。</li> <li>○思考の過程と結果を記述したり共有したりする時間を設けることで表現力を高める指導を行う。また、発表する活動も行う。また、グラフや表の読み取り活動を繰り返し行う。</li> <li>○ICT 機器を使用した指示出しを行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業では集中して取り組む生徒が多い。意見も活発である。</li> <li>○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。</li> <li>○表現や資料の読み取りに課題を有している生徒が一定数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元毎に小テストを行ったり簡単な家庭学習の課題等に取り組ませたりする。</li> <li>○資料の精選を行い、授業内で資料を活用し考え、表現する活動を多く設定することで資料活用の技能を向上させる。また、意見を共有する場を多く設定することで表現力を高める指導を行う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業では集中して取り組む生徒が多い。表現力に優れている生徒が多い。</li> <li>○思考を深くすることができている。</li> <li>○社会を学ぶ意義や意味がわからず、意欲が減退している生徒が一定数いる。</li> <li>○基礎的な知識・理解の定着ができていない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究型の授業を実施する。生徒の素朴な疑問を解決すべく、複数の資料や情報を事前に用意し、適切な提示を行う。解説が必要な際には、生徒の身近なものに関連付けて行う。</li> <li>○単元毎に小テストを行ったり、簡単な家庭学習の課題等に取り組ませたりする。</li> </ul>



現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎的・基本的な知識および技能の習得を重視する。</li> <li>●言語活動の充実の観点から、社会的な見方・考え方を養うことを重視する</li> <li>●社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。</li> <li>●持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題の探究と考えをまとめる学習を行う。</li> </ul>



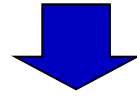
(3) 数学科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	<b>区学力調査の結果の分析</b> ○小数・分数の四則計算をミスする生徒が多数いる。特に小数計算では、小数点の位置を間違える生徒が多かった。区の平均正答率よりも、3.3ポイント低く小学校での計算力が低下している。面積・体積も、区より4.5ポイント低い。 ○平面図形は区より5.3ポイントも低い。単位や百分率も低い。データの活用やグラフの読み取りは、2～3ポイント高く、グラフの読み取りやデータの活用は、身に付いている。	<b>具体的な授業改善案（手だて）</b> ○指導員や学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい机間指導を行う。 ○できるだけ授業内でサポートするようにするが、夏休みや定期考査前の補習教室も活用する。 ○四則計算が定着していないことを改善するために、図形や統計分野のときにも復習する機会をつくる。 ○教科書を忘れてしまう生徒もいるので、デジタル教科書やプリントなども使用し進めていく。 ○タブレットを活用する課題を模索し、生徒が活用する機会をつくる。 ○授業内での理解にとどまらずに課題を出して、家庭学習を定着するように指導する。
	<b>授業における課題</b> ○小数・分数の計算が苦手な生徒が多いため、できるだけ丁寧に、小数、分数の計算をさせ、苦手意識をなくすように授業を進めていく。また、補習などで、計算力を身に付けさせたい。 ○平面図形や立体図形などは、実際に模型を手にとらせて、丁寧に授業を進めていくこと。 ○文章題を苦手としている生徒も多数いるので、たくさん取り入れ線分図や表を利用して、分かりやすい言葉で、ゆっくりと、授業を進めていくこと。	
2年	<b>区学力調査の結果の分析</b> ○内容別正答率から分析すると、数と式の領域の計算の復習が4.1ポイント、正の数・負の数が5.3ポイント、文字式が4.5ポイント区平均よりも低く、特に分数の計算や、かっこを含む計算が苦手である。 ○領域別正答率を見ると、関数では区よりも4.4ポイント下回っており、グラフから反比例の式を求めたり、比例のグラフをかいたりすることが苦手である。 ○平面図形や空間図形、データの散らばりと代表値の内容では区の平均を上回っていることから、概ね基本的な理解はできていると考える。	○基礎コースでは、指導員や学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい机間指導を行う。できるだけ授業内でサポートするようにするが、夏休みの補充教室や定期考査前の補習質問教室も活用する。 ○単元別小テストや定期考査のやり直しテストを実施し、家庭学習で何度も反復練習し、授業内で理解した内容が定着するように指導する。 ○問題文から読み取った条件を正確に式やグラフで表せるよう、既習した内容との関連性を再度意識させる。 また、デジタル教科書や一人一台のiPadを活用し、視覚的に理解できるような工夫をする。
	<b>授業における課題</b> ○習熟度クラスの中でも基礎クラスは、生徒の学力の差が大きく、個別の支援が必要となる場面が多い。文章問題になると、全く考えようとしていない生徒や、式の意味を考えようとしていない生徒がいる。また、自分の考えを自分の言葉で他者に説明することが苦手な生徒が多い。	
3年	<b>区学力調査の結果の分析</b> ○文字について解くことは区よりも11.1%高く、等式の変形はできる。しかし、方程式の分野では（ ）を含む方程式が区より4.1%、問題文を理解し連立方程式の $x, y$ が何を表しているのかがわかることについては区よりも6.6%低かった。このことから、機械的に式を操作することはできるが、式を読み取ることが苦手であることがわかる。 ○箱ひげ図と四分位範囲については区よりも2.5%低い。2年の始めに既習したことから箱ひげ図の意味を忘れていた生徒がいる。ただし、箱ひげ図の読み取りについては区よりも3.7%高いことから、箱ひげ図から分布を分析することはできていると考える。 ○その他、1次関数、図形分野は区の平均を上回っていることから、概ね基本的な理解はできていると考える。	○文章題から立式すること、立式されたものが何を示しているのかを考える時間を確保していくことが必要である。 ○章末などに既習したことを活用して、課題に取り組む機会をつくる。ヒントカードや電子黒板で解決の手順などを示すこと、教え合い学習を通して、率先して考えようとする場を設ける。

### 授業における課題

基本的な計算や図形の性質、証明などはできるが、既習したことを活用し課題に取り組むことが苦手である。じっくり考えず答えを知りたがってしまう傾向がある



### 現状分析を受けて、3年間を通して数学科で身に付けさせたい力とその方策

個別な支援が必要な生徒が増えているので、まずは計算力を高め、できる喜びを感じさせ数学的な楽しさを感じさせていく。その上で、既習内容を周りの生徒と考えたことの共有ができるようにし、主体的に学ぶ力を身に付けさせたい。

また、授業でスパイラル学習を入れ、反復して授業を行い、技能の向上と活用に必要な知識の習得を目指していきたい。

### 習熟度別少人数指導の充実に向けて

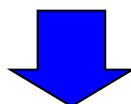
基礎コースは、基本的な理解と興味や関心の向上、標準コースは、得た知識を生徒同士で対話をしながら活用しようとする力を伸ばしていく。

発展コースは、応用的な課題に取り組ませ、より数学に対する興味や関心を高めさせ、いろいろな解法を求める過程を考えさせ共有することで、生徒同士で学び合う力を付けさせたい。

(4) 理科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>○意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒に二分化される。</li><li>○聞く力、書く力が定着していないため、正しく実験観察ができない生徒が多い。</li><li>○知識を整理し、それを使って、原理を考えたりする力が不足している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○タブレット PC を活用して、学習事項を視覚化し、理解しやすいように工夫する。</li><li>○実験観察活動を充実させるために、ICT を活用して記録するなど、振り返り学習を重視し、学習事項の定着を図る。</li><li>○学習した知識を使って、考察する活動を取り入れ、表現する力を向上を図る。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>○実験観察に関しては意欲的に取り組む生徒が多い一方で、座学では意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒に二分化される。</li><li>○自分の考えを論理的に説明することや、科学的な根拠をもとに論理的な文章を書くことが苦手な生徒が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○一人1台の iPad を活用して、生徒の興味関心に合った個別の課題に取り組ませたり、ジグソー法等の問題解決型学習を取り入れるなど工夫する。</li><li>○授業時間内に論理的な文章を書く課題を提示し、根拠をもとにした論理的な文章を書く力の向上を図る。</li></ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>○意欲的に取り組む生徒が多い。実験観察もていねいに取り組める生徒が多い。</li><li>○自然事象の不思議に対して、仮説、検証、考察のサイクルを積み重ねるなど、探究心が向上してきている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○話し合い活動を通して、情報を共有することで思考力、表現力を向上を図る。</li><li>○発展学習として、課題解決学習を取り入れ、分析能力を養う。</li></ul>



**現状分析を受けて、3年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策**

中学校3年間を通しての段階的、計画的な学びと理科で育成を目指す資質、能力の向上

- 1年：自然現象等に進んで関わり、その中から問題を見出す力
- 2年：問題を解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する力
- 3年：探究過程を振り返り、さらに探究していく力

＜方策＞

- 身近なものやモデルなどを示したり、タブレット PC を活用して実際に体験できない活動を補う。
- 知識習得の際、身のまわりのどの場面と関連しているのか、活用されているのかを授業展開に組み込む。
- 発展学習として、課題解決学習を取り入れ、分析能力を養う。仮説、検証、考察のサイクルを体験することによって、探究心を向上させる。

(5) 音楽科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>○音に敏感であるが、感じたことや思ったことを適切な言葉で表現することが苦手な生徒が多い。</li><li>○コロナ禍において、小学校でも歌唱経験が少なく、歌唱に対する意識が低迷している。正しい発声法が身に付いていない、どのように歌ったら良いか分からない生徒が多い。</li><li>○読譜の知識が不足している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。</li><li>○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。</li><li>○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。</li><li>○授業で写譜を扱い、楽譜に慣れる。細かな音楽記号の指導を行う。</li><li>○iPad に参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。</li><li>○振り返りシートを活用する。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。</li><li>○コロナ禍において、歌唱に対する意識が低くなり、声量が不足している。</li><li>○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。</li><li>○読譜の知識が不足している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。口頭で語句の説明を丁寧に行う。</li><li>○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。</li><li>○参考音源を繰り返し聴き、共に歌唱し、音楽的な技能を向上させる。</li><li>○読譜に慣れるための発問を増やす。</li><li>○授業で写譜を扱う。</li><li>○iPad に参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。</li><li>○振り返りシートを活用する。</li></ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>○作者の工夫などを考え、理解できる生徒は多いが、実際にそれを表現するのが苦手である。</li><li>○コロナ禍において、歌唱に対しての意識が低くなり、消極的な生徒が多い。</li><li>○自ら積極的に美しい声を出して表現しようとする生徒が少ない。</li><li>○自分たちの歌唱を聞いて、客観的に批評する力が不足している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○授業内で既習曲を取り入れ、歌いやすい雰囲気を作る。</li><li>○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。</li><li>○歌唱の参考例を挙げ、表現できるようにする。</li><li>○模範演奏を鑑賞し、楽曲に適した表現について話し合う。</li><li>○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。</li><li>○振り返りシートを活用する。</li><li>○iPad に参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。</li></ul>



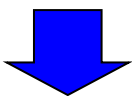
**現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策**

- 楽曲に相応しい演奏技能の習得…歌唱に対する意識を高め、美しい歌唱・合唱ができるようにする。学年に応じた楽曲に取り組み、無理なく、良い発声を意識した歌唱活動を充実させる。
- 様々な表現法の習得…楽曲をよく分析し、そのよさを引き出せるような表現ができるようにする。楽曲の背景や作者の思いを踏まえ、強弱や緩急などの表現を研究し、演奏する。

(6) 美術科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラスによってかなり雰囲気異なり、進度の差が生じやすい。</li> <li>○意欲はあるが、集中力が続かないため、作品の制作にかなり時間が掛かる生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業規律の確立を徹底する。</li> <li>○集中力が大いに必要な、少々高度に感じる課題を設定して取り組ませる。経験を積ませる。</li> <li>○計画的に見通しを立てて制作できるように、美術カードを活用し、ある程度の目安を例示して、計画を組ませる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作に時間をかなり要する。丁寧さがあってよいが、何度も描き直したり、混色などの作業に時間が掛かったりして授業1回あたりの進みが遅い生徒が少なくない。</li> <li>○絵を描く技術が表現の意図に応じて使い分けられない。技術の知識が不足して描けない生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作業効率が上がる支援を行う。</li> <li>○自分の絵に自信をもてるように、机間指導で声掛けを行ったり、悩んでいることに気付いて助言したりする。</li> <li>○技術力の向上と知識の定着が図れるような授業内容・展開を行う。</li> <li>○家庭科と協力して少人数指導を実施し、作業効率を高める。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの作業にも集中力があり、粘り強く取り組む姿勢が十分に付いている。</li> <li>○作品制作に失敗が多く、完全に理解しているつもりになっているが、実際は内容の理解が不十分な生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識や作業工程の理解の定着のため、何回も重要なことは授業内で繰り返す。</li> <li>○iPad に作業工程のスライドを配布する。スライドを確認しながら慎重に進める生徒がいたので、他の題材でも取り入れ、分かりやすくスライドを作成する。</li> </ul>



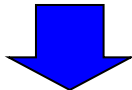
現状分析を受けて、3年間を通して美術科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●表現と鑑賞の活動を通して感性を豊かにする。</li> <li>●美術の楽しさを体感させるよう題材の設定と授業展開を行う。</li> <li>●身に付けた知識・技能を生かし、発想・思考したことを意図に応じて創意工夫し、自分らしく表現していく力を伸ばす。</li> </ul>



(7) 保健体育科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎体力及び運動経験が不足していること。</li> <li>○投力・持久力・柔軟性が不足していること。</li> <li>○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させたりする態度が不足していること。</li> <li>○運動の特性の理解が不十分であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を工夫し、基礎体力の向上を図る。</li> <li>○見本動画の視聴や自分の動きを明確にするためにiPadを効果的に活用する。</li> <li>○授業において目的をはっきり提示し、達成するための取組を具体化する。</li> <li>○自分のことだけでなく、周りの生徒の安全面にも配慮できるようにする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎体力及び運動経験が不足していること。</li> <li>○主体的に学習していく態度が身に付いていないこと。</li> <li>○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させたりする態度が身に付いていないこと。</li> <li>○生活習慣が健康へ寄与していることへの理解が不足していること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を充実させ、基礎体力を向上させる。</li> <li>○係生徒を中心とした自主的な授業形態を継続する。</li> <li>○単元のまとめなどをスプレッドシート上で行い、自由に自分の意見を表現させる。</li> <li>○互いに協力し合い、安全に実践するためにグループ学習を進め、教え合い活動を充実させる。</li> <li>○見本動画の視聴や自分の動きを明確にするためにiPadを活用する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身に付けた基礎体力を技能の習得などに応用することが十分にできないこと。</li> <li>○心身の健康に対する関心が不足していること。</li> <li>○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させようという態度に個人差があること。</li> <li>○部活動の引退で運動する時間が減少するため、様々なことの習得に時間を要すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を工夫し、基礎体力向上を目指す。</li> <li>○係生徒を中心とした自主的な授業形態及びグループによる教えあい形態の確立、ゲームを多く取り入れながら自主的な運営を行わせる。</li> <li>○ワークシート、学習カード、視覚的教材・iPadを活用する。</li> <li>○授業内での個別指導で技能を向上させ、達成感や成就感を味わわせる。</li> <li>○課題解決のため各自が考え、工夫し、さらにグループ学習で互いを高めあえる授業の展開を進める。</li> </ul>

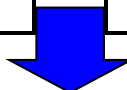


現状分析を受けて、3年間を通して保健体育科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めるようにする。</li> <li>○体力の向上を図り、たくましい心身を育てるようにする。</li> <li>○公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てるようにする。</li> <li>○健康・安全に留意して運動することができる態度を育てるようにする。</li> </ul>

(8) 技術・家庭科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や向上心はあるが、なかなか学習に取り組めない生徒が一部いる。</li> <li>○基礎的な技能を身に付けようとする力が不足している。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験、創造力が不足している。</li> <li>○自分の生活に結び付けて学習することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。</li> <li>○基礎的な知識を増やし、定着させる。</li> <li>○基礎的な技能を身に付けさせる。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な知識や技術を習得させるために、体験的な活動を増やしていく。</li> <li>○タブレットを活用しながら、家庭生活に結びつくような経験をさせる。</li> <li>○授業の見通しをもたせ、生徒自ら考えられるようにする。グループ学習やサポート学習を推進する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や向上心がある。</li> <li>○基礎的な技能や意欲がある。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験、想像力が不足している。</li> <li>○自分の生活に結び付けて学習することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒が主体的に活動できるようにする。</li> <li>○自分の生活に必要な物を作ることで生活の楽しさを理解できるようにする。</li> <li>○基礎的な知識を増やし定着させる。</li> <li>○基礎的な技能に関することは自分の生活を想像し、身に付けさせる実習を工夫させる。</li> <li>○自分で考え意欲的、能動的に学習し、作業する態度を育成する。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術を身に付けさせるために体験的な学習を積極的に行う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いて授業を受けて、向上心もある。</li> <li>○基礎的な技能が不足している生徒がいる。</li> <li>○主体的に学習する態度や課題を発展させて考えることがやや不十分な生徒がいる。</li> <li>○作業に見通しをもって取り組む姿勢がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べ学習の課題をレポートにしたり、発表したりして、思考力を身に付けさせる。</li> <li>○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒が主体的に取り組めるようにする。</li> <li>○達成感を得るために、時間内で作品が出来るようアドバイスする。</li> <li>○自ら進んで作品に取り組む態度を育て、周囲の人々との交流する機会をつくる。</li> <li>○社会の一員として自発的に、作業する態度を育成させる。</li> </ul>



**現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策**

生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成する。

- 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるようにする。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力を養う。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。

(9) 外国語科

【中学校】

現状分析	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）	
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>○コミュニケーションへの意欲は高い生徒が多い一方で、書字に困難を抱えている生徒も一定数いる。特に「書くこと」の領域で支援が必要である。</li><li>○小学生段階で学習済みとされている語彙に関して習得状況に大きく差がある。</li></ul>

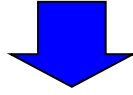
授業改善プラン	
具体的な授業改善策（手だて）	
	<ul style="list-style-type: none"><li>○文字指導や音声指導を充実させる。音と文字との関係を一致させることができるように音読指導も多分にとり入れる。</li><li>○オンライン学習サービスの Quizlet 等を活用し繰り返し、自分のペースで学習が出来る環境を整える。</li></ul>

現状分析	
区学力調査の結果の分析	
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>○読むこと、書くことの領域別正答率は区の平均を上回っているものの、聞くことに関しては 1.1 ポイント平均を下回っている。</li><li>○書くことに関して、条件英作文の問題で 4 文以上書いている生徒が区平均より 2.0 ポイント上回っており、意欲が感じられる。一方で未記入の生徒が区平均より 2.9 ポイント高いことが課題である。</li></ul>
	授業における課題
	<ul style="list-style-type: none"><li>○語彙に関する指導は帯活動で行っており、意欲的に取り組んでいるが、リスニングや書くことの活動になると、答えが分からず、手が止まってしまう生徒が散見される。</li><li>○単元ごとの小テストにおいての正答率は高い水準だが、定期テストになると正答率が下がることから、既習事項の活用ができていないと思われる。</li></ul>

授業改善プラン	
具体的な授業改善案（手だて）	
	<ul style="list-style-type: none"><li>○間違いを恐れず書くことにチャレンジさせ、個別にフィードバックを行い、正確性を磨いていく。</li><li>○普段の授業からリスニングに関する活動を増やしていく。音読の際にシャドーイングを重点的に行い、正しい音を身に付けさせる。また、ALT とのやりとりを多く設定し、英語を聞き、理解する場面を多く設定していく。</li><li>○新出単元の指導の際に、既習事項を活用した学習を取り入れていく。授業を通して今まで学習したことを積み重ねられるような指導をしていく。</li></ul>

現状分析	
区学力調査の結果の分析	
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>○観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、全ての項目で目標値を上回っている。</li></ul>
	授業における課題
	<ul style="list-style-type: none"><li>○学習内容の定着に差があり、自己表現の内容の幅や書く力にも個人差が見られる。さらなる底上げが必要である。特に今年度から中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）が導入されるため、音読練習や英語で自分の意見をまた少人数授業の効果的な指導方法の検討と使える英語への指導の工夫が必要である。</li></ul>

授業改善プラン	
具体的な授業改善案（手だて）	
	<ul style="list-style-type: none"><li>○Talking Book を用いた即興生のある対話練習や Retell の活動機会を増やし、回数を多く重ねることで内容の幅を広げる。また振り返りを行うことで、書く力の向上を目指す。</li><li>○個々の表現活動への評価カードを活用したきめ細かい指導を行う。</li><li>○基礎・基本の確実な定着のために、夏休みの補習や復習プリント等を授業の帯活動に取り入れる。</li><li>○教材の幅を広げ、学ぶ英語から使う英語、自ら発信する英語への転換を図る。少人数授業の特性を生かし活動の幅を広げる。</li></ul>



### 現状分析を受けて、3年間を通して外国語科で身に付けさせたい力とその方策

英語を「自分の言葉」として使用できる素地を養うため、グループ学習や発表を通して、基礎・基本の定着を図り、4技能（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）の力を総合的に高めていく。また、異文化理解を通して、視野を広め、ALTの活動やグループ活動を通して、実践的コミュニケーションの能力の育成を図る。

### 少人数指導の充実（実施校）に向けて

各学年のメインティーチャーを決め、教材、パワーポイントなどを英語科で共有し、統一した指導を行う。教員間の情報交換を密に行い、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、指導の工夫・改善を行う。

### A L Tの活用の工夫

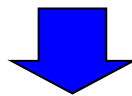
A L Tによるスピーキングをモデルとし、生徒のパフォーマンス活動につなげていく。また、A L Tによる生徒とのやりとりを数多く設定することでコミュニケーションの機会を増やしていく。



(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
全学年をとおして	<b>授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）</b>	<b>具体的な授業改善案（手だて）</b>
	○明るく素直であるが、授業に主体的に取り組む態度が足りない生徒もいる。	○実践的な道徳力を身に付けさせるためにも学年行事や学校行事等の体験活動と関連させ、生徒自身の生活の中で生かせる道徳指導を実践する。
	○道徳教育の中でもコミュニケーション能力を向上させ、豊かな人間関係を築くために、お互いを認め、高め合って個々の力を伸ばしていくために、教師自身も道徳指導における研修等を通して学んでいく必要がある。	○心に響く資料の選択及び活用・資料提示の工夫をして、生徒自身が主体的に自ら考え行動できるようにする。
	○学年が上がるにつれて、小グループでは活発に意見交換ができるようになってきている。しかし、全体で発表し意見を共有したり、検討したりすることには消極的な生徒も多い。指導する側が意見を発表しやすい雰囲気づくりをして、生徒の様々な意見を受け止め、授業展開していく必要がある。	○ゲストティーチャー、チームティーチング等の指導方法を工夫し、生徒と教師がともに考えていく機会をつくる。
○道徳の教材として、教科書を主に活用しているが、生徒の実態に応じて補助教材を効果的に活用する必要がある。	○iPad を活用して、意見交換をしたり、複数意見を表示したりして、意見交換が効果的にできるようにする。	
	○実際の事例や身近な話題、題材を工夫し、生徒自身とのつながりを意識できるようにする。	



現状分析を受けて、3年間を通して特別の教科 道徳で身に付けさせたい力とその方策
下記の重点項目について、3年間を通して系統的に学んでいく。 ○生命を大切に、他者を思いやる心を育てる。 ○公正さを重んじ、他者とともに生きようとする心を育てる。 ○それぞれの個を生かしてよりよい集団や社会を形成しようとする心を育てる。